

|   |                  |                         |
|---|------------------|-------------------------|
| 1 | CAS 番号：1761-71-3 | 物質名：ビス(4-アミノシクロヘキシル)メタン |
|---|------------------|-------------------------|

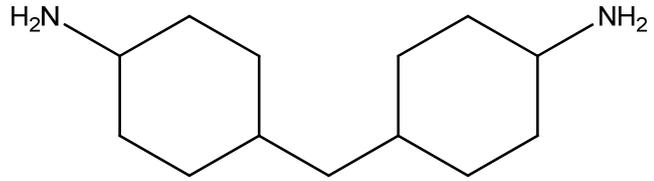
化審法官報公示整理番号：3-2272、4-101（ジアミノジシクロヘキシルメタン）

化管法政令番号：

分子式：C<sub>13</sub>H<sub>26</sub>N<sub>2</sub>

分子量：210.36

構造式：



### 1. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は  $1.23 \times 10^{-4}$  mg/L (20°C、pH=11.6) で、分配係数 (1-オクタール/水) (log Kow) は 2.03 (25°C)、蒸気圧は  $4.1 \times 10^{-4}$  mmHg (=0.055 Pa) (20°C) である。生物分解性 (好氣的分解) は分解率 10%未満 (28 日) であり、また、加水分解性については、大部分の脂肪族アミンは安定と考えられる。

本物質の主な用途は、メチレンビス(4,1-シクロヘキシレン)=ジイソシアネートの原料である。平成 26 年度における製造・輸入数量は 1,000t 未満であった。

### 2. 曝露評価

本物質は化学物質排出把握管理促進法 (化管法) 第一種指定化学物質ではないため、排出量及び移動量は得られなかった。

Mackay-Type Level III Fugacity Model により媒体別分配割合の予測を行った結果、大気、水域、土壤に等量排出された場合、土壤に分配される割合が多かった。

水生生物に対する曝露を示す予測環境中濃度 (PEC) は、公共用水域の淡水域、同海水域ともに 0.014 µg/L 未満程度となった。

### 3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Desmodesmus subspicatus* の生長阻害における 72 時間 EC<sub>50</sub> 2,164,000 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における 48 時間 EC<sub>50</sub> 6,840 µg/L、魚類ではコイ科 *Leuciscus idus* の 96 時間 LC<sub>50</sub> 100,000 µg/L 超が信頼できる知見として得られたため、アセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 68 µg/L が得られた。

慢性毒性値は、信頼できる知見が得られなかった。

本物質の PNEC は、甲殻類の急性毒性値から得られた 68 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は、淡水域、海水域ともに 0.0002 未満であり、本物質について現時点では作業の必要はないと考えられる。

| 有害性評価 (PNEC の根拠) |         |                          | アセスメント係数 | 予測無影響濃度 PNEC (µg/L) | 曝露評価 |                    | PEC/PNEC 比 | PEC/PNEC 比による判定 | 評価結果 |
|------------------|---------|--------------------------|----------|---------------------|------|--------------------|------------|-----------------|------|
| 生物種              | 急性・慢性の別 | エンドポイント                  |          |                     | 水域   | 予測環境中濃度 PEC (µg/L) |            |                 |      |
| 甲殻類<br>オオミジンコ    | 急性      | EC <sub>50</sub><br>遊泳阻害 | 100      | 68                  | 淡水   | <0.014             | <0.0002    | ○               | ○    |
|                  |         |                          |          |                     | 海水   | <0.014             |            |                 |      |

#### 4. 結論

|       | 結論                   | 判定 |
|-------|----------------------|----|
| 生態リスク | 現時点では作業の必要はないと考えられる。 | ○  |

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要がある、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない

(○)：情報収集等を行う必要性は低いと考えられる、(▲)：情報収集等の必要があると考えられる、(-)：評価の対象外、あるいは評価を実施しなかった場合を示す